

着任のご挨拶

シンガポール日本商工会議所 参与
EMBASSY OF JAPAN IN SINGAPORE
Second Secretary (Trade, Industry, Energy and Technology)
小澤 俊一郎



シンガポール日本商工会議所の皆様、この度、参与を務めさせていただくこととなりました、在シンガポール日本国大使館の小澤俊一郎と申します。中西の後任として2024年6月中旬に着任いたしました。微力ながら少しでも皆様のお役に立てるよう精一杯努めてまいります。何卒宜しくお願い申し上げます。

僭越ながら自己紹介をさせていただきます。私は2015年4月に経済産業省に入省し、これまで福島復興の最前線（避難指示解除の決定）、資源・エネルギー政策の舵取り（第5次エネルギー基本計画の策定）、中小企業金融支援（コロナ禍における「ゼロゼロ融資」の創設）、原子力政策の推進（原子力発電所の再稼働）、里見隆治大臣政務官秘書官（大臣政務官を表裏でフルサポート）、産業人材政策の促進（「リスクリング」の推進）等に取り組んでまいりました。幅広い部署で様々な経験をさせていただいておりますが、元々は資源・エネルギー政策を自分の軸として経済産業省の門を叩きました。

私は「あまちゃん」で一躍有名になった北三陸・岩手県久慈市の出身です。いわゆる東日本大震災の被災地になります。震災当時、私は大学生で東京にいましたが、慣れ親しんだ地元が黒い濁流に飲み込まれていく映像を見て、もういてもたってもいられなくなりました。幸い私の家族や実家に被害はなかったのですが、当時避難所生活を余儀なくされた両親からは、生きるのに必死だったと伺いました。我々は日々、何気なくパソコンを使ったり、お風呂に入ったり、テレビを見たり、車に乗ったりしていますが、こうした当たり前の生活が実は当たり前ではないことをまさに痛感した瞬間でもありました。さらに、製油所が火災を起こし、原子力発電所で事故が起き、ガソリンスタンドには長蛇の列ができました。我々が豊かな生活を送るためには、いついかなるときでもエネルギーが安定供給される強靱なシステムが必要不可欠です。そのグランドデザインを

いったい誰が描いて、どうやって世の中を牽引し、実行していくのか。それは、ある業界でも個別の会社でもなく、地方自治体でも他省庁でもなく、経済産業省でしかできない仕事だと知りました。民間企業の皆様や志を等しくする国々と協働しつつ、50年先いや100年先もその先も、日本が豊かであり続けるようにしたい、孫から「日本に生まれて良かった」と言ってもらえるような国にしたい。そのために、経済の潤滑油である資源・エネルギーは私が支えていくんだ！私自身がそのエネルギーになるんだ！と暑苦しく主張（今も本気でそう思っています！）してから早10年、まさかシンガポールで外交官をすることになるとは思いませんでした（笑）。

いわゆる「経産アタッシュェ」と呼ばれる経済産業省の在外ポストは、最近は全て省内公募制になっておりますが、多くの国に同様のポストがある中で私はシンガポールだけを熱望しました。社会秩序が洗練されていることはもちろんですが、何より業種・規模を問わず様々な日系企業が地域統括拠点をここに置いていることから、幅広い方々との接点をたくさん持つことができる、そのつながりはきっと一生の財産になる、それがシンガポールだけを熱望した私の志望理由です。今回こうしてシンガポールへの赴任希望が叶い、大変嬉しく思っております。

ちょうど先日、待望の第一子が誕生したこともあり、今後は育児にも全力投球しつつ、3年間の駐在生活を存分に謳歌したいと思います。大使館の立場から、日本とシンガポールはもちろん、東南アジア間のビジネス促進、当地における日系企業の発展、ひいては日本のプレゼンス向上に貢献していく所存ですので、ご遠慮なくいつでも何でもお申し付けいただければ幸いです。

最後になりますが、JCCIへの参加機会をいただきましたことに厚く御礼申し上げます。会員企業の皆様ならびにご家族の皆様の、益々のご健勝を祈念してご挨拶とさせていただきます。